

2020年3月に東京海洋大学にて開催される令和2年度日本水産学会春季大会において、下記タンパク質集談会主催のミニシンポジウムを開催いたします。

魚介類タンパク質・酵素の産業利用とさらなる理解に向けて

日時・場所：令和2年3月30日（月） 09:30-12:30 東京海洋大学品川キャンパス内

企画責任者：石崎松一郎（海洋大院）・福島英登（日大生物資源）・落合芳博（東北大院農）

09:30-09:35	趣旨説明	石崎松一郎(海洋大院)
		座長: 福島英登（日大生物資源）
09:35-10:10	1. エビ類筋肉ミオシン重鎖の構造および組織分布	小山寛喜（海洋大院）
10:10-10:45	2. 魚肉タンパク質の機能改変の試み	佐伯宏樹（北大院水）
10:45-10:55	休憩	
		座長: 石崎松一郎（海洋大院）
10:55-11:30	3. 水産加工におけるトランスグルタミナーゼの関与と利用	熊澤義之（東葉大）
11:30-12:05	4. 水産加工と魚肉タンパク質の変性制御	大泉 徹（福井県大海洋生資）
12:05-12:25	5. 総合討論	座長: 落合芳博（東北大院農）
12:25-12:30	閉会の挨拶	福島英登（日大生物資源）

企画の趣旨

水圏に生息する様々な生物を対象としたタンパク質・酵素研究は、魚介類を主要な食料資源としてきた我が国において特に精力的に行われており、日本水産学会発足当初から多くの有用な知見が集積され、様々な形で産業界に活かされている。昨今、水圏生物の主要なタンパク質のみならず、微量タンパク質の機能を制御し利用する方法にも注

目が集まっている中、本ミニシンポジウムでは、水産分野におけるタンパク質・酵素研究の最近の動向について紹介するとともに、魚介類タンパク質・酵素研究の今後の方向性と将来展望についても議論する。なお、本ミニシンポジウムは日本水産学会関連集会の一つであるタンパク質集談会が主催する。